

# 変わり続ける大森山 動物園&公園



今、大森山動物園は、公園と一緒に、秋田の元気印の一つになろうと、そして、お客さまに何かを感じてもらい幸せ気分になっていただきたいと、スタッフの熱い思いとアイデアで動いています。将来に向けた大森山動物園、公園の大筋の道標は、3年前に市民と一緒に作り上げた大森山自然動物公園構想ですが、それだけではなく、私たちは常に、お客さまと対話し、今何が必要なのかを考えながら活動をしています。今回は各担当からそんな思いを綴ってもらいました。



## もっと近くで もっと感じて より大きな感動を提供するために

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均

動物園は「動物と語らう森」をテーマに掲げ、飼育スタッフ皆、新しい工夫により、動物の展示やお客さまへのサービスを展開しています。動物たちの日々変化する魅力をより多くの方にご覧いただきたいの思いからです。

今年のテーマは「もっと近くで、もっと感じて」、主役である動物たちとお客さまとの距離を縮め、手の届くところにいる動物の毛並みや息づかい、臭いや仕草など生きている動物本来の魅力と迫力を体感していただこうとの思いです。

7月にはアムールトラとフラミンゴの観覧場所が新設され、ガラス越しにトラの様子がよりクリアに、また、綺麗なフラミンゴを目の前でご覧になることができるようになりました。

また、現在設計が進められているリス舎やカメ牧場（仮称）も今年中に完成する予定です。

子どもが生まれ、繁殖が順調なリス舎には、お客さまが中に自由にお入りいただき、リスと同じ空間を体感し、時に触れ合ったり目の前を横切る様子を観察できるようになります。また、仔ガメがたくさん誕生したケヅメリクガメのカメ牧場計画が進められ、放牧場のように開けた場所に、大きな大人ガメや小さな仔ガメを十数匹展示し、甲板に触れたり、また、寒い季節もカメをご覧いただけるようにしたいと改良計画を進めています。

動物園では、こうした展示サービスを「にぎわい創出事業」として位置づけ、継続的に進められるよ



新スポットになって見やすくなった「まんまタイム」

うに予算の確保に努めています。職員がアイデアを出し合い、園内で幾度も検討し実現させます。

更には、「自然と調和し、市民と共に成長し続ける公園づくり」をコンセプトとして進められている、動物園を核とした大森山自然動物公園（仮称）の整備では、2014年の完成を目指し、現在の正面ゲートを改修する大屋根ビジターセンター計画が進行中です。ここでは、入園してすぐお客さまに楽しんでいただくため、可愛い動物たちが出迎えてくれる、「ウエルカム動物」のコーナーを組み込みます。

動物園はある意味生き物と同じ、人がからだをケアし続けるように、いつも動物たちが元気で生き生きとした表情でいられるように、またスタッフがハートのこもったサービスができるように、常にお客さまと対話し続け、園の改良を重ね、大きな感動を提供し続けていきたいと考えています。



## 美短との連携 ～美しく彩られる動物園～

企画広報担当 主査 八柳 泰輔

動物園内には、皆さんが大好きな動物たち以外にも、子どもたちや来園されたご家族の素敵な笑顔を創り出すアイテムが潜んでいます。ミルヴェ館内に飾られている動物立体ポスター、軽食コーナー前にある動物たちが描かれ園内を華やかに彩っている大きなパネル、子どもたちに大人気の「ふれあいランド」には、約10m×50cmもの大きなイラスト幕、園路に描かれたペンギンの足形などです。これらは、来園者に、特別な空間に居ることを無意識に伝え、期待感やワクワク感を与えています。

前段で紹介したものは、すべて秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科（以下「美短」といいます。）の学生たちが提案してくれた作品です。

美短と当園は、アート&ハートプロジェクトと称して、大森山動物園を大きなテーマとした地域対応演習を共同で行っています。毎年、テーマを定めて、約15週間の時間をかけて行われ、イメージを膨らませるために学生たちが動物園に通ってきたり、園長が大学で講演を行ったりと、動物園と美短の間には良い関係が築かれています。

担当のベ・ジンソク准教授は、この演習の目的を「今後、中長期的に整備される大森山自然動物公園の魅力のかつ効果的なデザイン戦略の考え方やデザインの良い感性と論理の融合、企画の大切さ、情報の整理と見せ方について学ぶ。」としています。確かに、こ



設置完了後の作品（一部）



優秀作品に選出されたグループ

れから更なる発展をしようとしている大森山動物園をテーマとした授業を行うことは、学生にとって得るものが多いのではないのでしょうか。

そのような中で、平成23年度は、「秋田市大森山動物園アートストリートプロジェクト」と名付けられた授業が行われました。これは、大森山動物園へのアクセス道路をアートで飾り盛り上げようとしたものです。成果は「動物園にぎわい創出事業」で大森山動物園へのアクセス道路である市道大森山2号3号線沿いに掲示されました。3m×1mの15枚のパネルとなり、約1kmの動物園道路を彩り、動物園のウエルカムロードという新名所が誕生しました。

ご来園された方々は、アート感覚あふれる作品で彩られたストリートを通ってご来園、ご帰宅されたことが、楽しかった思い出の一つとして記憶に刻まれるのではないのでしょうか。



## 動物園とつながる公園

施設担当 主席主査 鈴木 悟

大森山公園は秋田市南西部に位置する約70haの都市公園で、45年から52年度にかけ整備されました。

自然の中で育む学校教育活動を目的に建設された、少年の家やフィールドアスレチックなどは、近年、老朽化が進み、加えて趣味の多様化により、大森山公園の利用が少なくなってきた感じを受けます。

そんな中でも、標高123.5mの展望台から見渡す鳥海山や男鹿半島の眺望、日本海に沈む夕日や、秋田市街地の夜景は、今も変わらず人々の心に思い出を刻み続けています。また、山頂下に広がるグリーン広場から塩曳潟につながる沢は、高木に挟まれた湿原植生域や、彫刻作品が並んでおり、心地よい環境と景観を備えています。散策路には、随所にサクラ、ツツジ、アジサイなど、四季折々の花が咲き、一年を通して彩り豊かな表情に出会い、植物の生命力など、自然を全身で体感できる恵まれた環境を持っています。



グリーン広場から塩曳潟へ続く湿原と彫刻



西側に見る日本海と男鹿半島

平成23年度からは公園の再整備がスタートしており、こうした整備に加えて独自のソフト事業を絡ませながら、この花は何、この道はどこに続いているのかなど、来園者の探求心をくすぐりながら、ハーブガーデニングなどを市民と一緒に作りあげるほか、散策路に動物の愛称を付けるなど、世代を超えた多くの人々が笑顔で利用し、次世代に残していける魅力が継続する公園にしていきたいものです。